

#### 4 徳島県立文学書道館【32,616千円】

文学・書道資料の収集・保存、調査研究に努めるとともに、その成果を展示や催し、教育普及事業等に生かし、広く県内外から親しみ利用される施設となるよう魅力ある事業展開を図る。

##### (1) 頤彰、表彰事業 【1,670千円】

	事業名	概 要	金額(円)
1	第20回とくしま文学賞	広く県民から文芸作品(小説・脚本・文芸評論・児童文学・随筆・現代詩・短歌・俳句・川柳・連句の10部門)を募集し、発表の場を提供することにより文芸活動の活性化、県民文化の向上を図る。各部門の入選作品は、「文芸とくしま」に掲載する。  応募締切:9月30日(金)当日消印有効 発表:12月中旬(新聞紙上・館内掲示・HP) 表彰式:令和5年2月11日(土)	1,670,000
	小計		1,670,000

##### (2) 年鑑編集・刊行事業 【430千円】

	事業名	概 要	金額(円)
1	研究紀要「水脈」19号	館が所蔵する文学者や書家に関する作品や資料等の調査研究を行い、その成果を紹介するために刊行する。  B5版サイズ 700部	430,000
	小計		430,000

##### (3) 教育普及育成事業 【5,389千円】

	事業名	概 要	金額(円)
1	文学講座 大高翔の俳句教室	若い世代を対象とした俳句の実作講座。高校卒業時に第1句集を出版して話題を呼んだ阿南市出身の俳人・大高翔さんを講師に迎え、句会を通して作句の基本を実践的に学ぶ。  日時:4月～6月(全5回) 会場:講座室	600,000
2	文学講座 芸術・文化を語る	徳島ゆかりの芸術家や文化人に専門分野の話を聞いていただき、心豊かな生き方について考える。  日時:6月～9月(全4回) 会場:講座室	600,000
3	文学講座 第2回原爆朗読劇 「夏の雲は忘れない」	原爆朗読劇「夏の雲は忘れない」を10人の出演者で上演する。女優の渡辺美佐子さんらが2019年まで上演していた舞台を昨年から文学書道館が引き継いだ。毎年上演して「反戦・平和」の思いを若い世代に伝えていく。  日時:8月7日(日) 会場:ギャラリー	1,100,000
4	第21回言の葉朗読会	朗読愛好家がそれぞれ選んだ文学作品を5分以内で朗読する。朗読を楽しみ、朗読の質の向上をめざす人たちに舞台を提供し、朗読を聞くことが好きな人たちにその機会を設ける。  日時:9月23日(金・祝) 会場:ギャラリー	20,000

## (3) 教育普及育成事業

	事業名	概 要	金額(円)
5	文学講座 短歌を作ろう	「雲珠短歌会」代表で徳島新聞「徳島歌壇」選者でもある竹安隆代氏を講師に迎え、優れた短歌の鑑賞と実作を行う。また参加者がお互いの作品について感想を述べ合い、歌境を深める。  日時:10月～3月(全6回) 会場:講座室	220,000
6	文学講座 秋の文学講演会	第一線で活躍している作家、詩人、歌人、俳人などを招いて、これまでの歩み、自作について、創作の方法などのテーマで話してもらい、文学と芸術、世界と人間の在り方について理解を深める。  日時:10月～11月(全2回) 会場:ギャラリー	500,000
7	文学講座 古典を読む 「清少納言零落説話」	鳴門に残る清少納言伝説など、説話集から伝承や伝説について講義する。  日時:11月～3月(全4回) 会場:講座室	110,000
8	書道講座 一流書家による席上揮毫	書道界の第一線で活躍している書家を招き、席上揮毫のほか、揮毫作品の制作意図や技術的なこと、書に対する自身の考え、書道道具へのこだわりなどを語ってもらう。なお、講座修了後にロビーで揮毫作品展を開催する。  日時:9月11日(日) 会場:ギャラリー	276,000
9	書道講座 書道講演会	書の専門家、評論家、美術館学芸員、書や筆・墨・硯・紙に関する本の著者、話題の人などを講師に招き、講演会を開催する。  日時:10月10日(月・祝) 会場:ギャラリー	182,000
10	書道講座 新春 書き初め 大字に挑戦 !	小学生対象の講座。新年の書き初めにちなんで、好きな漢字一字を特大筆(全長46cm・穂長14.5cm・穂径4cm)で68×70cmの紙に書く。大字を書くことで、書に親しみ、書の楽しさを知ってもらう。  日時:1月9日(月・祝) 会場:講座室・実習室	49,000
11	書道講座 書の鑑賞	書の鑑賞については、「文字が読めないから難しい」「芸術的な作品の良さが分からぬ」などの声が聞かれる。本講座では、著名な書の専門家を講師に招き、幅広い年代の人わかりやすく書の見方を解説し、書の魅力を知ってもらう。  日時:1月29日(日) 会場:ギャラリー	132,000
12	書道講座 書道実技講座－近代詩文書	書の作品制作を行う実践的な講座。近代詩文書の制作を通して、さまざまな用筆や、作品の構成などについて学ぶ。  日時:2月～3月(全3回) 会場:実習室	200,000

(3) 教育普及育成事業

	事業名	概 要	金額(円)
13	ことのはロビーコンサート	文学書道館の存在を知ってもらい、気軽に足を運んでもらうことを目的とする。各回、徳島ゆかりの演奏家には、言葉や文学にまつわる曲、開催中の展覧会に関わる曲をプログラムに組み込んでもらい、文学書道館ならではの独創性も生み出す。  日時:5月～3月(全6回) 会場:1階ロビー	1,400,000
	小計		5,389,000

(4) 展示事業 【25,127千円】

	事業名	概 要	金額(円)
1	文学常設展 瀬戸内寂聴記念室  (常設展示事業)	瀬戸内寂聴の人生の歩みと寂聴文学を紹介する。嵯峨野「寂庵」を模した書斎や、心和む日本庭園を設置している。また、年1回程度の展示替えを行っている。  期間:通年 会場:瀬戸内寂聴記念室	
2	文学常設展 文学常設展示室  (常設展示事業)	徳島ゆかりの文学者とその作品、著名作家が徳島を描いた文学作品などをさまざまな角度から紹介している。展示室では、企画展も開催している。  期間:通年 会場:文学常設展示室	
3	文学常設展 収蔵展示室  (常設展示事業)	瀬戸内寂聴寄贈による日本近代女性史の貴重な研究資料など、豊富な資料を保管している収蔵庫内をガラス越しに公開している。また、特別展に関連した展示や収蔵品の紹介も行う。  期間:通年 会場:収蔵展示室	
4	書道常設展 書道美術常設展示室  (常設展示事業)	収蔵品の中から、徳島ゆかりの書家の作品を中心に展示している。また、小坂奇石の息づかいが感じられる書斎を再現している。 年3回展示替えをし、豊富な作品を幅広く紹介する。  期間:通年 会場:書道美術常設展示室	
5	文学特別展 追悼 瀬戸内寂聴  (特別展示事業)	昨年11月、99歳で死去した瀬戸内寂聴の生き方をたどる。 日本の敗戦と戦後の民主主義思想の中で自我にめざめ、自由と平和を求めて執筆し、行動した軌跡を原稿、著書、写真、年譜等を展示して紹介する。また新聞・雑誌に掲載された追悼文を集めて展示する。  期間:4月9日(土)～5月22日(日) 39日間 会場:特別展示室・ギャラリー・収蔵展示室	3,095,000
6	書道特別展 驥山館所蔵 小坂奇石の名品  (特別展示事業)	小坂奇石(1901～91年)は、独自の書風を確立した、昭和を代表する書家である。今回は、奇石が父親のように慕い、書家として初めて芸術院賞を受賞した川村驥山を顕彰する驥山館から、親交のあった奇石の作品を借用し、展示・公開する。  期間:6月17日(金)～8月3日(水) 41日間 会場:特別展示室・ギャラリー	2,865,000

## (4) 展示事業

	事業名	概要	金額(円)
7	文学特別展 原田一美 一子供たちへの伝言  (特別展示事業)	吉野川市山川町出身の原田一美(1926～2016)は、教師として勤務しながら、数々の児童文学作品を発表。児童とのホタル研究を題材にした『ホタルの歌』が第1回学研児童ノンフィクション文学賞に入賞したほか、多くの作品が全国学校図書館選定図書に選定されるなど、高く評価されている。徳島ゆかりの題材を通して平和を訴える作品も数多く、温かいまなざしで人々の心に寄り添い続けたその生涯と業績を紹介する。  期間:8月11日(木・祝)～9月25日(日) 41日間 会場:特別展示室・収蔵展示室	2,200,000
8	書道特別展 生誕100年 今井凌雪展  (特別展示事業)	書道界の第一線で活躍し、日本芸術院恩賜賞・日本芸術院賞を受賞した書家・今井凌雪(1922～2011)の書は、漢字の各書体のほか、調和体、篆刻、刻字、映画の題字など幅広い領域に及んだ。また、書への芸術的思考が深い書家でもあった。今井凌雪の生誕100年を記念し、選りすぐりの名品を展示する。  期間:10月1日(土)～11月13日(日) 38日間 会場:特別展示室・書道美術常設展示室・収蔵展示室	2,957,000
9	文学特別展 作家の原稿  (特別展示事業)	夏目漱石、芥川龍之介、太宰治など近現代を代表する作家・詩人の手書き原稿約40点を展示する。ひとつの作品の背景にどれほどの苦悩や喜びがあったのか、さまざまな時代を人々はどのように生きてきたのか。文学が生まれる瞬間の息づかいに触れる場を提供する。  期間:12月13日(火)～2月12日(日) 47日間 会場:特別展示室・収蔵展示室	6,500,000
10	書道特別展 石飛博光 一律動する書  (特別展示事業)	当館初となる現役書家の書道特別展。誰もが読める「近代詩文書」創作に精力的に取り組む書家・石飛博光(1941～)の書作品を展示する。なお、開館20周年にあたり、石飛氏に作品を揮毫してもらい、企画展「開館20年の歩み」展の会期中にロビーで展示する。  期間:2月17日(金)～3月26日(日) 33日間 会場:特別展示室・ギャラリー	4,777,000
11	書道企画展 中林梧竹 館蔵の逸品  (企画展示事業)	中林梧竹は近代書道史に名を連ね、明治の三筆に挙げられる書家である。当館では、梧竹の支援者であった海老塚的伝氏より寄贈された傑作を中心に約300点を収蔵しており、毎年テーマを変えて梧竹の作品を紹介している。今回は開館20周年にあたり、館蔵品から梧竹の優品20点を選び展示する。  期間:6月14日(火)～9月25日(日) 91日間 会場:書道美術常設展示室	210,000
12	文学企画展 佐古純一郎の夏目漱石論  (企画展示事業)	名西郡神山町生まれの文芸評論家・佐古純一郎(1919～2014)は、亀井勝一郎や小林秀雄から指導を受け、文芸評論を発表。29歳の時に洗礼を受け、キリスト教を交えた独特な評論を数多く残した。その中から、夏目漱石論にスポットを当てて展示する。  期間:6月21日(火)～8月28日(日) 61日間 会場:文学常設展示室	410,000

## (4) 展示事業

	事業名	概 要	金額(円)
13	企画展 開館20年の歩み  (企画展示事業)	文学書道館の20年の歩みを、特別展のポスターや図録、年表、折々の写真などを展示して回顧する。また、記念式典にあわせて、当館の展示作家が作詞を手掛けた楽曲を、県内在住の声楽家が歌うコンサートを催し、イベントを華やかに彩る。  期間:10月22日(土)～11月20日(日) 26日間 会場:ギャラリー	1,300,000
14	書道企画展 第7回 書道創作グランプリ  (企画展示事業)	徳島県内の小学4年生から高校生までを対象とする書道コンクール。作品応募による予選を行い、予選通過者を対象に当館で本選を実施。本選当日に課題を発表し、お手本なしで創作する全国でも稀なコンクールである。席書作品270点(各学年30点。高校は「漢字」「漢字仮名交じり」「仮名」の3部門各30点以内)と招待参加者(これまでのグランプリ受賞者、準グランプリ2回受賞者)の作品を展示し、各学年・部門のグランプリ、準グランプリ、金賞受賞者90人を表彰する。なお、今回は開館20周年にあたり特別賞を設ける。  期間:12月3日(土)～12月11日(日) 8日間 会場:ギャラリー	813,000
	小計		25,127,000
	合計		32,616,000